

SNS 勉強会にかかわって感じたこと

シビル NPO 連携プラットフォームサポーター／土木学会連携部門
土木学会 教育企画人材育成委員会 シビル NPO 推進小委員会 幹事長
株式会社プレック研究所 柴田 勝史



■はじめに

2019年4月、CNCPの「SNS勉強会」に話題提供者の1人として参加し、シビルNPO推進小委員会 Facebook ページの紹介などをさせていただきました。この経験もふまえ、感じていることなどを寄稿します。

■市民はどこから情報を得ているか？

情報通信白書によれば、わが国のインターネットの普及率（個人利用率）は約80%だそうで、インターネットは身近に存在するくインフラです。インターネットは、テレビや新聞と異なり、一方通行の情報発信のみではなく双方向の情報交流が可能であり、スポンサーへの忖度（？）も不要で自由なコンテンツが発信可能であることが特徴です。

■CNCP 会員はインターネットというくインフラを使いこなしているか？

CNCPは「土木と市民社会をつなぐ」を活動目標の1つに掲げていますが、「つなぐ」ためにはこのインターネットやSNSなどのくインフラを使いこなす必要があります。しかし、CNCP会員（個人・団体）は、これらをどれほど活用しているのでしょうか。ホームページをもっているも更新が少なかったり、SNSアカウントをもっていないかたりする会員が多いかもしれません。

■「市民社会」から見える存在になれ

インターネットやSNSに接続していないと、「市民社会」から見えない存在となってしまいます。例えば、SNS勉強会の企画段階では「こんな誰でもできることをわざわざCNCPでやるの??」という声もありました。普段からSNSを使いこなす人にとってはそう思えるのです。このネット／非ネットの断絶を、個人レベルで克服することが求められています。

■何を発信すべきか？

土木の人にはマジメな人が多いと言われますが、ここは「べきか」などと堅苦しく考えず、自由な立場から発信したいことを軽い気持ちで積極的に発信し、「いいね！」と感じれば、絡んでみればよいのです。小委員会の Facebook ページ（ぜひフォローお願いします！）も、そのような観点で長く続けることを1つの目標としています。

■自らの経験こそコンテンツ

インターネット検索では、同じ情報源と思われる似たようなコンテンツがたくさんヒットすることもあります。一方で、CNCPや学会の集まりで、ベテラン技術者の話を聞く機会（酒の席を含めて）がありますが、面白くて勉強になる話が多いです。どれも理屈やマニュアルのみでは語るができない、苦労や経験に裏打ちされた独自のストーリー性をもつ、魅力あるコンテンツといってもいいと思います。

■実践あるのみ！

SNS勉強会では、実践編として Facebook アカウントの取得や投稿もやりました。アカウントを初めてとった方もおられ、それなりに面白がっていただけたように思います。CNCP会員の皆さんには、引き続きインターネットやSNSに親しみ、「土木と市民社会をつなぐ」一助を担っていただけると心強い限りです。



SNS 勉強会の様子
（右端が筆者。撮影は野村吉春氏）